



Race Report

09 May, 2012

PETRONAS TWS GS350 デビュー2戦目で初表彰台を獲得

■公式予選 【天候】 晴 【コース】 ドライ

2012年スーパー耐久シリーズ第2戦の舞台はツインリンクもてぎ。昨年は最終ラウンドとして開催されたが、今季は開催時期が大幅に改められ、かなりコンディションの異なる状況でレースを戦う事となる。さらに今回は久々の2day開催。予選は決勝開催日の前日、28日の土曜日に行われた。

前日金曜日のセッションでは、ウェットコンディションで2番手タイムをマークしていたPETRONAS TWS GS350。この日は晴れ間が戻り完全なドライコンディションでのセッションとなったものの、その走りには多くの注目が集まった。そんな中、PETRONAS TWS GS350は朝のフリー走行でまずはベースのセッティングを確認。ここでますますの走り出しを見せたものの、後の公式予選には開発途上にあるハンディを少しでも早く埋めるべく更に大きな変更をマシンに加え挑む事となった。そして迎えたAドライバー予選。ここでマシンに乗り込んだのは吉本大樹。その吉本は「(朝から大幅にセッティングを変更して)結果としては良い方向には進まなかったけど、後に向けての方向性は確認出来た」という内容で、まずは2'07'210をマークする。

更にその後のBドライバー予選では、佐藤晋也選手が電気系のトラブルからABSに誤作動が起り、タイヤが壊れてしまうという苦しい展開ながらも2'07'645をマーク。これでPETRONAS TWS GS350は翌日決勝の5番手グリッドを確保。そしてその後のCドライバー予選では今回はドライバーとして参戦した小林敬一選手がレースセットを確認し「決勝に向けてはマシンバランスも良い方向に進んできた」と、ますますの内容で初日の公式予選を終える事となった。

■決勝 【天候】 晴 【コース】 ドライ

4月下旬とは思えない、まるで夏日を思わせるような天気となった日曜日のツインリンクもてぎ。決勝は気温28℃、路面温度38℃という過酷なコンディションでスタートの時を迎える事となった。

前日の予選では、フリー走行から様々なマシンセットにトライし続け、最終的に5番グリッドを獲得したPETRONAS TWS GS350。そのPETRONAS TWS GS350はこの日朝のフリー走行でも新しいセットにトライ。そしてそのデータを基に決勝に向け更なる変更をマシンに加える事に。ところがこの作業に予定以上の時間を擁してしまい、何とスタート前のピットクローズまでに間に合わず。これによりPETRONAS TWS GS350はピットスタートから決勝を戦う事となってしまった。

この苦しいスタートを担当したのは、前回は監督としてチームに帯同、今回はドライバーとして参戦していた小林選手。それでも小林選手はここでベテランらしい落ち着いた走りを披露する。タイヤは前日の予選で使用したUSEDタイヤであったが、それを感じさせないペースで序盤から着実にポジションをアップ。クールスーツとドリンクシステムにトラブルを抱えていた為、エアダクトの無いマシン内部は相当な暑さであったにも関わらず、その後もペースを乱す事無くきっちりと30周を走り切り、第2スティントの吉本大樹へとステアリングを繋いでいく。

このピットストップでステアリングを受け取り、NEWタイヤでコースへと戻った吉本大樹。するとその吉本は夏日の様なコンディションの中、ドライバーへのクーリングシステムが全くない状態での走行を強いられながらも、この日の3ドライバー中最多の42周を走破。「マシンのバランスも良かったし、今このGS350の持てるパフォーマンスをフルに出せたと思う」と、初の表彰台獲得に向けハイペースで周回を重ねていく。「最後は若干脱水症状気味だった」とはいうものの、心配されていた電気系トラブルが出る事もなく、いよいよ表彰台獲得が現実味を帯びるところまでポジションを巻き返し、最後の第3スティント佐藤選手へとマシンを託していく。

するとその佐藤選手も素晴らしいペースでレースを周回。「このままいけば3位は確実」という展開に、ピット内も初表彰台獲得への期待が高まります。ところが最後の最後ハプニングが待っていた。なんとハイペースでの追い上げを見せた佐藤選手は2位のマシンに追いつき、最終ラップの最終コーナーでこのマシンをオーバーテイク。2位でチェッカーフラッグを潜り抜ける。ところがこの順位変動の際に接触があった為、レース後に佐藤選手はコントロールタワーに呼ばれ、正式結果を待つピット内には何とも言えない空気が漂う事に。発表された正式結果は「ペナルティとしてレース結果に10秒を加算する」というもの。4位との差が大きく離れていた為、これによりPETRONAS TWS GS350の3位が確定。惜しくも2位は逃したものの、デビュー2戦目での初表彰台獲得を成し遂げ、今季第2戦を終える事となった。

12' Super Taikyu Series Round_2 / Twin ring motegi

2012.4.28 (sat) Qualify

2012.4.29 (sun) Final

Text : www.hiroki-yoshimoto.com【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmsc/>【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyu.com/>【Hiroki Yoshimoto Official Site】 <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS



Race Report

09 May, 2012

吉本大樹コメント

マシンの開発が大きく進んだ一戦でした。昨年はIS350で他のマシンと戦うレベルに来るのに終盤までかかりましたが、今季のGS350は準備期間もしっかりあったことと、自社メンテナンスに変わった事で全員がマシンに対しての知識も高まり、向かうべく方向性もしっかりしてプロフェッショナルに進んできたからこそ、このスピードで戦える所までできました。

トップとの差はまだありますが、この勢いでどんどん詰めていきたいと思います。GS350で戦って2戦目にして得た結果、チームは誇りに思っている良い結果だと思います。

すぐに迫るSUGO戦でもしっかりと結果を出しに行きたいと思っています！



PHOTO



PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED